

RS ウイルス感染症予防接種 説明書



1 RS ウイルス感染症について

咳やくしゃみを通じて空気中に広まったウイルスを吸い込んだり、ウイルスが付いた物の表面を触った手で口、鼻、目などの露出した粘膜を触ったりすることで感染する病気です。

1歳までに半数以上、2歳までにほぼ100%が1度は感染すると言われており、その後も何度も感染と発病を繰り返します。

症状は軽い風邪のようなものから重い肺炎まで様々ですが、特に乳児期早期（生後数週間～数か月）に発症すると重症化する場合があります。

2 予防接種の対象者

- 妊娠28週0日から36週6日までの妊婦
(母子免疫ワクチンとして行います)



母子免疫ワクチンとは…

妊婦がワクチンを接種することで、その抗体が胎盤を通して赤ちゃんに移行し、生まれた後の赤ちゃんを感染症から守るためのワクチンです。



3 予防接種の回数、方法、費用等

接種回数	接種方法	接種費用
妊娠ごとに1回	筋肉内注射	無料

4 予防接種の効果

- 対象期間内に予防接種を受けることで、児が感染した場合の重症化を予防する効果が認められています。
- ただし、妊娠38週6日までに妊娠終了を予定している場合（帝王切開等）で、その14日前よりあとに接種を行う場合、出生した児における有効性は確立していないので、妊娠終了を予定している日の14日前までに接種を完了していることが望ましいとされています。



5 予防接種後の副反応

- 注射した部位の痛み・赤み・腫れ、頭痛、筋肉痛などが認められることがありますが、こうした症状の大部分は数日以内に治ります。
- 非常にまれですが、ショックやアナフィラキシーなどの症状が現れることがあります。接種後にじんましん、呼吸困難、動機、息切れ、冷や汗、意識障害等、体調に変化が生じた場合はすぐに医療機関に相談してください。

裏面もご覧ください



6 予防接種を受ける前に

■ 一般的注意

- ・ RS ウイルス感染症の予防接種について、この説明書をよく読み、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気になることやわからないことがあれば、接種を受ける前に医師に質問しましょう。
- ・ 母子健康手帳を必ず持って行きましょう。
- ・ 予診票は、接種する医師にとって大切な情報です。責任をもって記入しましょう。

■ 予防接種を受けることができない人

- ① 接種当日、明らかに発熱（通常 37.5 度以上）している人
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 接種するワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーショックを起こしたことがある人
- ④ その他、医師が予防接種を受けることに不適切な状態にあると判断した人

■ 予防接種を受ける前に、かかりつけ医とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液やその他の慢性の病気で治療を受けている人
- ② 過去の予防接種で、接種後 2 日以内に発熱、発疹、じんましん等アレルギーを疑う異常が出たことがある人
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ④ 過去に免疫不全と診断されたことがある、または近親者に先天性免疫不全症者がいる人
- ⑤ 接種するワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある人
- ⑥ 血小板減少症や凝固障害（出血時に血が止まりにくい）のある人、抗凝固療法（血液をサラサラにする薬の投与）を受けている人
- ⑦ 授乳をしている人
- ⑧ 妊娠高血圧症候群の発症のリスクが高いと医師が判断する人

■ 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 予防接種を受けた後 1 時間程度は、急な副反応が起きることがあります。体調の変化に注意し、症状が現れたときのため医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後 1 週間程度は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありません。

7 予防接種健康被害救済制度について

RS ウイルス感染症の予防接種を受けたことにより、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。



問合せ先

健康増進課/TEL:23-0310 長浜保健センター/TEL:52-3055
肱川保健センター/TEL:34-2340(河辺地区含む)